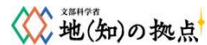


# Monthly Letter



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)  
『地域創生の担い手を育み活気あふれるふくいを創造する5大学連携事業』  
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



原子力技術  
分野WG

平成28年度福井大学原子力セミナー～研究成果報告会～を開催!

1月27日午後、「平成28年度福井大学原子力セミナー～研究成果報告会～」が、福井大学文京キャンパスアカデミーホールで開催されました。このセミナーは、本学の附属国際原子力工学研究所と工学研究科原子力・エネルギー安全工学専攻が主催して、毎年開催しているものです。本年度は、特に国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(以下、原子力機構)との共同研究をテーマとして、現在までに行っている研究成果を中心に発表しました。はじめに、附属国際原子力工学研究所の宇正正美副所長から研究概要について説明し、研究室で学んでいる大学院博士後期課程の河口さんと土井さんが研究発表を行いました。2人の発表があった後、原子力を学ぶ学生からの質問が相次ぎ、活発な意見交換となりました。次に、工学研究科原子力・エネルギー安全工学専攻の川崎大介講師が、「廃止措置シナリオ分析に係る研究開発」と題して研究発表を行ったところ、会場からは最近、よく耳にすることの多い廃止措置に関する質問が出ました。最後に、宮原信哉客員教授が昨年12月21日に政府の原子力関係閣僚会議において、もんじゅの廃炉が決定された話題に触れ、高速炉研究を推進していくことも明示されている現状において「今後、原子力機構の「ナトリウム工学研究施設」を有効に活用し、技術開発や人材育成に繋げていきたい」とお話がありました。今回、この報告会をCOC+事業の1つとして位置づけ、学生へ積極的に参加を呼びかけた結果、参加者約50人のうち、14人も学生が参加し、真剣に発表を聴き、質問する姿が見られました。今後も、このセミナーを継続して、本ワーキングの原子力研究の成果を広く周知するとともに、この機会を通じて学生の原子力に対する理解増進に繋げていきたいと考えています。



大学院生からの研究発表

(原子力技術分野WG 福井大学研究推進課 西川和浩課長補佐より寄稿いただきました。)

## 平成28年度後期 COC+開講授業風景をご紹介します!(その3)

2016年12月号(Vol. 3)よりスタートした平成28年度後期COC+開講授業風景の紹介を、今月号も引き続き紹介します。

福井県立大学 地域経済研究所 南保 勝先生  
水曜5限「福井地域学」

この講義は、素晴らしい歴史、伝統、文化、産業・企業、県民性を保有する福井県の姿を理解してもらい、福井を好きになってくれる、興味を持ってくれる受講生が一人でも多く増えることを期待し、開講されています。取材した当日の講義は、「福井県が地方創生に向けて何を成すべきか」を、福井の企業が行っている実例を交えて、わかりやすく学生に伝えていました。具体例として、市場のニーズと生産者をうまくまとめ、組織化するオーガナイザー企業としての挑戦や、福井の技を現場の熟練技術者から若手人材へと引き継ぐためのマイスター制度の取組などを挙げ、「福井だからこそ」できることを紹介し、学生も熱心に聴いていました。



南保 勝先生

(取材日：平成29年1月18日)

福井工業大学 基盤教育機構 坂田 興司先生  
金曜2限「経済学入門」

この講義は、経済学の基本的な考え方からスタートし、現代社会における景気・金融・為替等の経済活動に関する知識を習得し、日本経済が直面する経済問題について考えることができる力を養うことを目的としています。毎週講義の始めに、その一週間での日経平均株価、円・ドル相場、金・原油の価格などの推移を学生が調べ、発表する時間があります。学生自ら調べることにより、現代経済の基本的動きを理解し、経済がより身近な物に感じられるように取り組まれています。取材した当日の講義は、少子高齢化による経済への影響を解説しており、大学生に関係する国民年金、社会に出てから関係する厚生年金・共済年金の仕組みについて、学生にわかりやすい表現に換えて伝えていました。学生がわからないことを先生に質問し、熱心に聴く様子が印象的でした。(取材日：平成29年1月20日)

## 宮崎大学視察レポート

宮崎県日向市で平成28年11月23日に開催された「COC/COC+合同シンポジウムIN日向市2016」に参加しました。シンポジウムでは、パネルによるCOCの取組紹介に加えて、別会場に地元の農産物を使った新商品の販売コーナーが設けられていました。ブルーベリーの実ではなく「葉」を使ったドリンクが販売されていました。この商品の開発に宮崎大学が深く関わっているということです。

24日には、宮崎大学を訪問してCOC+の取組状況について情報交換をしました。特に興味を持ったのが「宮崎授業配信システム」です。このシステムは、授業コンテンツを電子化・画像化してインターネットで配信し、受講生がいつでもどこでも受講できる教育システムです（宮崎大学COC+HPより引用）。撮影は大学独自で行っており、COC+の職員が担当しています。システムの特徴は、学生の視聴状況が詳細に分かるということです。

最後に宮崎大学の方は、「九州出身の6、7割の学生は、九州地域に残っている。九州地区のCOC+大学が連携出来ないか考えている。九州というのは島なので、そういう意味で結束しやすい」と言われていました。

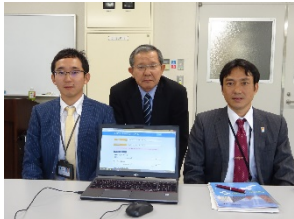
今回の視察を通して、北陸という枠組みで何か結束できることを考えることも必要だと思いました。



地元農産物を使った新商品販売コーナーの様子



地元の保存会、宮崎大学の学生、留学生による「日向ひよっこ踊り」の披露



宮崎大学COC+担当と舟木コーディネーター

## 次年度に向けた、新しい講義のカタチにトライアル中！

1月21日にCOC+参加大学において、平成28年度に制作したアーカイブシリーズの中から、「ふくい繊維の原点」を題材にした「映像」「ブックレット」などによる講義を実施しました。

この講義は、福井大学で昨年度からCOC集中講義として開講し、1年生を中心として約80名が受講する「ふくいを知る・見る・考える」の講義の一部です。集中講義は、地域の自然、環境、歴史、産業などを知るとともに、地域が抱える諸問題や課題に対して関心を持ち、地域をフィールドに自ら学び、地域社会のさまざまな人との積極的な触れ合いなども通し、大学のキャンパスでは学べないことを地域と協働して、主体的に学ぶことを目的としています。

平成29年度にはCOC+共同開講科目として開講することとしており、内容を一新し、新しい視点で「ふくいを考える」きっかけになることを目指します！

1月21日に、講義を受講した学生から出た意見も反映していきたいと考えております。さらに、アーカイブは双方向遠隔授業にも組み込み、学生が「ふくい」に触れる機会を増やしていける展開になることを検討しています。

また、平成29年度から双方向遠隔授業が現在の1科目から4科目へ増えますので、お楽しみに。



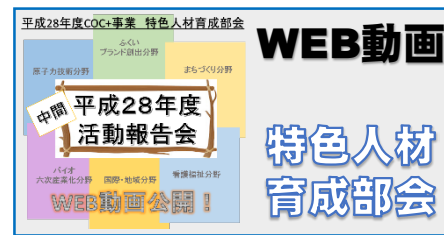
授業の様子

特色人材育成部会

## 10月15日「特色人材育成部会中間活動報告会」の動画配信をスタート！

10月に開催された特色人材育成部会中間活動報告会の様子をダイジェストにまとめた動画を作成しました。動画はCOC+ホームページのお知らせから閲覧可能です。是非チェックしてみてください！

リンク：「ふくいCOC+5大学連携事業ホームページ お知らせ」  
<http://www.allfukui-cocp.jp/news/> (こちら！→→)



## 編集後記

北陸にもついに本格的な冬がやってまいりました。大雪にならないことを願いながら、雪が降るとどこか福井の冬らしくて素敵だな～、とわくわくしながら雪景色を楽しんでいます。「大学連携センター（Fスクエア）」での授業も無事後期が終わり、着々と来年度の準備が始まっています。来年度のCOC+の飛躍のためにも今年度の残りわずか、駆け抜けたと思います！（久保）